



題 字  
初代会長 松野 盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費に含む)

発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中 田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二八年度

# 秋田県消防協会評議員会開催される

## 平成二七年度会計決算などを承認



一般財団法人秋田県消防協会の平成二八年度定時評議員会が五月二五日(水)、秋田市の「イヤタカ」で開催されました。

評議員会には、秋田県副知事堀井啓一様、秋田県町村会事務局長水谷津様、秋田県消防学校副校長伊藤博之様が来賓として出席されたほか、評議員一八名、理事・監事一四名が出席しました。

最初に殉職された消防職員・団員の御霊に黙祷を献げ、引き続き中田会長がいさつ、堀井副知事から祝辞をいただきました。

議事に入り、平成二七年度事業の概要報告や会計決算、また、任期満了に伴う評議員二八名、理事一四名の選任、辞任に伴う監事一名の選任などが審議されました。

理事の任期は、平成三〇年度定時評議員会の終結の時までとなります。

平成二八年度全国統一防火標語  
消しましょう その火その時 その場所で

### 会長あいさつ



秋田県消防協会会長  
中 田 潤

ご来賓並びに評議員の皆様には、当協会の運営に対し、それぞれの地域において、格別なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

去る四月一四日に発生した熊本地震は大きな被害をもたらしましたが、一日でも早く平穏な日が訪れることを祈念するものであります。

このような中、県民の消防防災に対する関心・期待は高まっており、消防本部、消防団の任務・役割は益々重要であります。

我々は地域住民の負託に応えられるよう、なお一層、精進を重ねていく必要があると考えます。

当協会は四月一日、一般財団法人に移行しましたが、今後とも皆様のご理解を賜りまして、より公益性の高い協会を目指してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひ致します。

### 来賓祝辞



秋田県副知事  
堀 井 啓 一

評議員の皆様には、常備消防そしてまた消防団活動を通して、県民の安全・安心を守るために格別のご尽力を賜っておりますことに感謝申し上げます。

先般の熊本における大地震では、大変な被害を被っておりますが、改めて災害により犠牲になられた方々に対し哀悼の意を表し、そしてまた被害に遭われました方々に対しお見舞いを申し上げます。

東日本大震災以来、津波対策ということに重点的に意を用いて来ているわけですが、今回の地震を踏まえ、直下型の対策も早急に進めていく必要があると考えております。

またこれからは、梅雨末期の大雨や台風などにも備えていかなければなりません、皆様にはなお一層のご尽力をお願い致します。

本日は誠にありがとうございました。

■承認された議案

- ①平成二十七年度事業の概要報告
- ②平成二十七年度会計決算
- ③監査報告
- ④定款の変更
- ⑤役員等の選任

\*任期満了に伴い選任された評議員

- 田中 政幸 (鹿角消防署長)
- 小山 初美 (藤里町団長)
- 畠山 隆一 (男鹿市団長)
- 古戸 俊行 (潟上市団長)
- 齊藤 和雄 (八郎潟町団長)
- 遠間 富和 (井川町団長)
- 谷口 良一 (大潟村団長)
- 浅井 学 (男鹿地区消防長)
- 足利 幸雄 (秋田市副団長)
- 小野 甚左衛門 (秋田市副団長)
- 金子 英紀 (にかほ市副団長)
- 富田 昭 (横手市横手団長)
- 平良木 保 (横手市増田団長)
- 菊池 二郎 (横手市大森団長)
- 菅原 一太郎 (横手市平鹿団長)
- 細川 祐一 (横手市十文字団長)
- 塩田 勉 (横手市雄物川団長)
- 藤原 博 (横手市山内団長)
- 瀧澤 將史 (羽後町団長)
- 鈴木 修 (東成瀬村副団長)

\*任期満了に伴い選任された理事

- 児玉 誠喜 (鹿角市団長)
- 一関 鎌一 (五城目町団長)
- 佐藤 久仁 (大館市消防長)
- 佐藤 好幸 (秋田市消防長)
- 森川 正明 (大曲仙北広域消防長)

(評議員・理事は、新たに選任された方のみ掲載しました。)  
\*新たに選任された監事  
佐々木 伸一(にかほ市団長)

■協議事項等

- ①平成二八年度事業計画及び収支予算
  - ②平成二九年度秋田県消防大会の開催支部
- ※第七〇回大会は、秋田市支部で開催します。

③秋田県消防操法大会出場順の抽選について

ア 今年度から出場する各支部の代表選手等が抽選する方法に変更する。

イ 抽選は、ポンプ車操法の部及び小型ポンプ操法の部の二種目とし、男性の全国大会開催の年(隔年)に実施する。

ウ 抽選の際、審査員から事前練習や大会の注意事項等について伝達する。

エ 抽選は、八月上旬に秋田市内において実施する。

④全国消防操法大会の秋田県招致について

『臨時理事会を開催』  
定時評議員会終了後、臨時理事会を開催し、正副会長の選定を協議しました。

その結果、中田会長、草薙・成田・海野副会長の三名がそれぞれ選任されました。

第十回東北水防技術競技大会

～由利本荘市消防団初出場～

第十回東北水防技術競技大会が五月二十九日(日)青森県八戸市(馬淵川)河川敷で開催され、本県代表として由利本荘市消防団が出場しました。

大会は、東北六県の選抜された水防団が「月の輪工」と「シート張り工」の二種目を行い、一五分の基準タイムと手順の正確さや出来栄え、規律などの審査により競われました。

今回、初出場しました由利本荘市消防団は、由利本荘市消防団の中の、由利支団の各分団から選抜された二〇名で編成され、四月下旬から約一ヶ月間の練習を積み、大会に臨みました。



普段は、消防訓練大会で競い合っている各分団ですが、この大会では一つのチームとして協力し合い、入賞できるよう練習に励みました。結果は、残念ながら入賞することはできませんでしたが、タイム、出来栄え共に上位チームに引けを取らないものであったと思います。

今後は、本大会の経験を生かしながら各分団の垣根を越えて協力し合い、火災や各種災害に対応してまいります。

大会の出場にあたりましては事前指導をいただきました、にかほ市消防団に対しまして深く感謝申し上げます。



(情報提供) 由利本荘にかほ支部

## 一般財団法人秋田県消防協会 理事・監事・評議員 (平成28年5月25日現在)

## 〔理事〕

役 職	氏 名	所属・階級等
会 長	中 田 潤	能代市消防団 団長
副 会 長	草 薨 忠 誠	大仙市消防団 団長
"	成 田 十喜男	大館市消防団 団長
"	海 野 達 雄	秋田市消防団 団長
理 事	高 橋 博 英	秋田県総務部総合防災課 課長
"	近 野 宗 一	湯沢市消防団 団長
"	周 防 彦 宗	由利本荘市消防団 団長
"	佐々木 一 義	横手市大雄消防団 団長
"	一 関 鎌 一	五城目町消防団 団長
"	児 玉 誠 喜	鹿角市消防団 団長
"	佐 藤 好 幸	秋田市消防本部 消防長
"	森 川 正 明	大曲仙北広域市町村圏組合 消防本部 消防長
"	佐 藤 久 仁	大館市消防本部 消防長
業務執行理事	高 橋 尚 文	秋田県消防協会 事務局長

## 〔評議員〕

役 職	氏 名	関係する消防機関
評 議 員	澤 口 紀 夫	小坂町消防団
"	田 中 政 幸	鹿角広域行政組合消防署
"	金 田 咲 美	北秋田市消防団
"	北 林 義 高	上小阿仁村消防団
"	金 子 忠 夫	三種町消防団
"	本 多 健	八峰町消防団
"	小 山 初 美	藤里町消防団
"	畠 山 隆 一	男鹿市消防団
"	古 戸 俊 行	潟上市消防団
"	齊 藤 和 雄	八郎潟町消防団
"	遠 間 富 和	井川町消防団
"	谷 口 良 一	大潟村消防団
"	浅 井 学	男鹿地区消防一部事務組合消防本部
"	足 利 幸 雄	秋田市消防団
"	小野 甚左衛門	秋田市消防団
"	金 子 英 紀	にかほ市消防団
"	佐々木 久 悦	仙北市消防団
"	高 橋 正 尚	美郷町消防団
"	富 田 昭	横手市横手消防団
"	平良木 保	横手市増田消防団
"	菊 池 二 郎	横手市大森消防団
"	菅 原 一 太郎	横手市平鹿消防団
"	細 川 祐 一	横手市十文字消防団
"	塩 田 勉	横手市雄物川消防団
"	藤 原 博	横手市山内消防団
"	大 石 義 孝	横手市消防本部
"	瀧 澤 将 史	羽後町消防団
"	鈴 木 修	東成瀬村消防団

## 〔監 事〕

役 職	氏 名	所属・階級等
監 事	成 田 俊 昭	小坂町消防団 団長
"	佐々木 謙 吉	東成瀬村消防団 団長
"	佐々木 伸 一	にかほ市消防団 団長

## 平成27年度決算〔正味財産増減計算書内訳表〕

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

科 目	公益事業	共益事業	管理事業	内部取引	合 計
経常収益計	12,895,282	14,125,037	2,879,956		29,900,275
主な内訳					
基本財産運用益	750	0	0		750
受取会費(掛金)	0	5,604,600	0		5,604,600
事業収益	291,600	0	0		291,600
受取補助金等	6,132,412	6,003,066	602,000		12,737,478
受取負担金	2,840,000	1,345,469	891,576		5,077,045
受取寄付金(会費)	3,247,000	1,156,000	1,375,900		5,778,900
その他経常収益	383,520	15,902	10,480		409,902
経常費用計	18,326,299	7,594,869	5,581,185		31,502,353
主な内訳					
給与等	6,557,000	2,341,000	2,812,805		11,710,805
旅費交通費	2,438,154	271,950	905,771		3,615,875
備品消耗品費	1,233,770	2,681,960	289,844		4,205,574
印刷製本費	2,477,897	333,935	0		2,811,832
支払助成金	1,456,921	0	0		1,456,921
委託費	1,658,460	0	0		1,658,460
見舞金支出	0	1,640,000	0		1,640,000
その他経常費用	2,504,097	326,024	1,572,765		4,402,886
当期経常増減額	△5,431,017	6,530,168	△2,701,229		△1,602,078
【他会計振替額】	2,447,444	△2,447,444	0		0
当期一般正味財産増減額	△2,983,573	4,082,724	△2,701,229		△1,602,078
一般正味財産期首残高					112,726,192
一般正味財産期末残高					111,124,114
主な内訳					
基本財産	3,000,000	0	0		3,000,000

# 第七〇期初任教育 一ヶ月を振り返って

秋田県消防学校

第七〇期初任教育の入校生は、四月八日の入校式からもう二ヶ月が過ぎました。

入校当初、全く未知の分野である消防の教育訓練への不安、寮での共同生活への戸惑いなどが感じられたが、今ではみんなが協力して日々の学校生活を送っています。

教育訓練も五月に入ると、体力錬成、礼式訓練から消防基礎技術の習得へと移行し、現在では、空気呼吸機器取扱訓練、身体結索訓練などの実技訓練が本格化してきています。

こうした中、消防学校から「一ヶ月を振り返って」と題した作文が寄せられましたので紹介します。



澤木 大樹  
(秋田市消防本部)

一ヶ月を振り返って自分の中では、あつという間に過ぎた印象があります。入寮してから入校式までの三日間はとても長く感じました。何もかもが初めてのことでただで体力的にも精神的にも疲れたことが自分の中には残っています。

自分は四月の目標を訓練礼式、寮内の暮らし方を確実に覚えることにしました。訓練礼式は自分の中で人よりも努力が必要だと感じました。教官からは次のことを常に予測して動くようにと言われていますが、自分では出来ていません。しっかりと予習、復習をして人よりも努力しなければなりません。また、節度を意識して行動していきます。人と合わせること、同じ動作をすることは、消防の仕事をしていく中で、基礎になると思います。訓練礼式は本当に基礎の部分だと思っているので今後もしっかりと努力していきます。

自分は年上の方なので、寮内では生活の見本となれるように努力していきます。一ヶ月が過ぎましたが、まだまだ覚えなければいけないことがたくさんあります。一つ一つをしっかりと自分のものにします。



佐々木 昌太  
(横手市消防本部)

四月六日に研心寮に入り、四月八日に行われた入校式から私の消防人生がスタートしました。初めは覚えることがたくさんあったり、指示通りに出来なくてたくさん腕立てをさせられたりと、大変な毎日でした。

しかし、一ヶ月経った今振り返ってみるとこの一ヶ月はとても充実していたと感じました。規則正しい生活や規律のある行動、本番を想定した訓練等が私を成長させてくれたのだと思います。今では、怖いと感じなくなかった教官の方々から、私たち七〇期生を一人前の消防士にさせたいという思いを感じられるようになり、私もその気持ちに相應するように頑張りたいと思うようになりました。

これからも厳しい訓練が待ち受けていると思いますが、同期の皆さんと協力しながら、強い気持ちを持って乗り越えていきたいと思えます。そしてこの七〇期生七〇名の皆さんと誰一人欠けることなく笑顔で卒業したいです。残りのあと約四ヶ月も色々なことに積極的に取り組み、たくさん学べるよう一生懸命頑張りたいと思います。



高橋 侑宏  
(大館市消防本部)

消防学校には不安な気持ちでいっぱい状態で入校しましたが、一ヶ月経過し、これからどうということが待ち受けているのか不安な気持ちが少しなくなりました。

消防に関することは全く無知なので、授業と訓練を頑張っていることと、思っていました。礼式があることに驚き、授業と訓練と礼式をこの一ヶ月でやってきました。毎日が初めてのことばかりで、自由時間を使って復習を頑張ってきました。自分とは細いので、体力錬成の方にも力を入れて、少しでも太くなるよう頑張りました。卒業する頃が楽しみです。

訓練では、基本結索、小型ポンプ、三連梯子をやってきました。一ヶ月で三つのことを覚えることができました。この後いくつ学ぶのか、復習をしっかりとやっていきたいです。

授業では、六法の多さと厚さに驚き、これをこれからやっていくのだなあと思っています。この授業で学んだことが、卒業して本部に戻った時に事務的なことで必要になるので、しっかりと覚えて、本部で苦労しないようにしたいです。



大友 峻真  
(由利本荘市消防本部)

一ヶ月を振り返ってみると、入校日から比べて消防士としてすぐ成長した気がします。入校してすぐに訓練礼式があり、入校式の準備だけであつという間に一週間が過ぎました。次の週からは、講義や小型ポンプ操法、基本結索と基礎の積み重ねでした。四月後半からは三連梯子操法が始まりました。講義、訓練と行ううちに、一週間が過ぎ、その繰り返して一ヶ月が過ぎました。考えてみると早かつたと感じると同時に、ダメだしされる所がありますが、敬礼など形は出来てきた気がします。半年後には、それぞれ配属先で勤務することになります。成長したとはいえ、勤務して火災現場、救助、救急活動があつた時に現場に行つて動けるかと聞かれたら、知識も浅いし、動きも分からず足を引っ張ってしまうと思います。

初任科教育を終了して、一年目から出勤して動けるように今後の学校生活を過ごしていきたいと思ひます。



石川 功太  
(北秋田市消防本部)

入校式から一ヶ月が経ちました。入校した頃は、周りの同期の人たちと仲良くすることが出来るのか、一年経験した自分でも訓練について行くことが出来るのか不安を感じていました。しかし、日々の訓練を通じて厳しく辛いことも仲間達と一緒に声を掛け合いながら乗り越えていくことで、訓練にはついて行くことが出来ました。また、仲間達と訓練や日々の寮生活の中で打ち解け合うことができ、この一ヶ月間楽しく充実することができました。

訓練は厳しく辛いこともありすが、仲間と乗り越えていけます。その訓練の中には、一年経験した技術や知識を活用することができ、消防の技術をより深く学ぶことができます。立派な消防士になるには、自分の技術や知識を深め、間違ひのあるところは直ぐに修正して今後の訓練で頑張つていきたいと思ひます。今後の消防学校生活の中で仲間と時にぶつかり合うことがあるかもしれませんが、どんな時でも仲間を思いやり、大切にしていきたい、みんなと一緒に消防学校を卒業できたらいいなと思ひます。



柴田 悠真  
(にかほ市消防本部)

入校する前は、勉強面や人間関係などで不安がいつぱいあつたが、同じ部屋の仲間をはじめ七〇名の同期に恵まれ、勉強面、訓練、体力練成など切磋琢磨して取り組むことが出来ている。私は二年の実務経験を経て消防学校へ入校したが、まだまだ学ぶことがたくさんある。消防法を勉強することで、今まで行つてきた業務の根本を知ることが出来たり、私たち消防吏員は法律により守られているという安心感も生まれた。訓練の際も、自分の知っているやり方とはまた別の手法を学ぶことができ、一日一日の授業が充実している。

ただ入校して反省点もある。それは、寮に帰つてから次の日の授業の予習と復習を怠つてしまつた所である。折角座学や訓練などで教わつたことも、次の同じ授業では忘れてしまつたりしている。自習の時間も設けられているので、時間を有効に活用していきたい。残りの学校生活では、消防の基礎となる知識、技術を貪欲に吸収して配属先に戻つて応用が利く消防吏員になりたい。



福島 良磨  
(五城目町消防本部)

初任教育が始まり、一ヶ月が経過しました。私にとってこの一ヶ月は、非常に内容が濃く、充実していたと思う。なぜなら、四月から現在までがまさに消防吏員としてのスタート地点であり、覚えるべき技能や名称、規律が多かつたからだ。私が今までの期間で感じたことは、消防吏員として必要とされる技術又は取り扱う器具は、日常生活や他の職業では修得したり、扱うことがないような特殊なものばかりだということだ。故に日々の授業は新鮮であつた反面、初めて見る器具や訓練に戸惑つてしまうことも多々あつた。しかし、毎日戸惑いや失敗を繰り返しながらも試行錯誤し、貪欲に吸収できたからこそ、この一ヶ月が充実したのだと思ふ。

大切なのは、これからの二ヶ月、三ヶ月後を充実した学校生活にすることが出来るかどうかである。毎日の授業や生活に慣れていくことで、マンネリ化してしまひ、自身の成長が止まつてしまふということがないように、何事にも疑問を持ち、日々向上心を持ってこれからの授業に励んでいきたい。「初心を忘れない」で。



加藤 秀之  
(湯沢雄勝広域市町  
村圏組合消防本部)

一ヶ月ここで過ごして変わったことは、生活リズムと体力です。

生活リズムでは早寝、早起きが身についたことです。土日、家に一時帰宅しますが、その時も消防学校にいる時のように六時に目覚めて、夜は二時半頃になると眠くなり、布団に入るようになりました。朝食も高校生の時は部活動の朝練習があり、いつも食べないで学校に行っていました。消防学校に入ってから朝食を食べないと、一日が始まらない感じがするようになり、毎朝食べるようになりました。それからは体の調子も良くなったような気がします。

もう一つ変わったことは体力です。入校して直ぐに体力測定があり、自分の体力の無さを実感しました。その後、授業の始めに体力錬成をすることになりました。自分の苦手の懸垂も日に日に回数が増え、自分の限界を超えらそうに感じる日も増えてきました。これからはもっと追い込んで体力の底上げをしたいです。

一ヶ月は早く短い時間でした。二ヶ月後、三ヶ月後は更に一回りも二回りも大きく成長して、立派な消防士を目指していきたいと思えます。



中西 啓太  
(能代山本広域市町  
村圏組合消防本部)

私はこの一ヶ月を「座学」「訓練」「日常生活」この三つの視点から振り返ってみたいと思えます。先ず「座学」ですが、実務経験をしてから入校しましたので聞いたことのある言葉や用語がでてくる分少しは理解するまでの時間が短縮されているとは思いますが、中には初めて聞く言葉や用語、あいまいな理解で終わっていたものもあつたりして、自習時間等を有効活用しなければ十分な理解ができないまま終わってしまうと感じました。

次に「訓練」ですが、この一ヶ月間のうちに行った訓練は、所属で訓練したものの復習になりました。特に、三連梯子の訓練では安全管理の重要性というものを改めて感じました。必ず二人で三連梯子を操作するため、パートナーに自分の命を預けるような形になります。そのため「分かってはいるだろう」という先入観で活動するのは事故の原因になります。

最後に「日常生活」は、今までの生活リズムと違い少し戸惑いましたが、思ったより早く慣れ、学生達とも仲良く生活出来ていると思えます。残りの五ヶ月内容の濃い生活を送りたいと思えます。



黒丸 歩  
(大曲仙北広域市町  
村圏組合消防本部)

消防学校に入校してすでに一ヶ月が過ぎた。何一つ分からないまま入校して厳しくも新鮮な毎日であった。初めての長期的な集団生活は様々なことに気を遣い、朝目覚めても疲れが全然抜けない日があつた。しかし、部屋のメンバーを中心に楽しく生活が出来るようになって、訓練も座学も集中して出来るようになった。初めての訓練礼式はやり過ぎではないかというほど、キビキビとした動きだと思つたが、今となってはより機敏により節度を持って、一つ一つ熟練度を上げていかなければと、毎日意識して出来るようになった。厳しい訓練も慣れない集団生活も、学校でするその全てが市民の血税を使ってできているのだと初任給を貰ったときに感じた。私たち初任科が出来ることは、市民の期待に応えるために、この消防学校で基礎を学び、消防人生の一步を確実に踏み出すことである。

消防士を志した動機はどんなものだったであろうか。「人を助けたい」「火事をなくしたい」等であつたはずだ。これからの厳しいことも消防士を志した初心を胸に乗り越えていければと思う。



阿部 理紀也  
(鹿角広域行政  
組合消防本部)

入校する前は、不安ばかりで緊張していましたが、部屋の人と仲良くなり、そしてたくさんの人に仲良くしてもらい非常に助かりました。学校の規則や雰囲気、授業の進み方など次第に慣れ、楽しく学校生活を送ることが出来ました。

授業では、様々な分野の座学があり大変ですが、夜の自習時間を有効に使い、予習、復習を毎日欠かさずにやり、努力しています。次から次へと覚えることが出てくるので、これから勉強を欠かさずやっていきたいです。

実技の方では、体力錬成やポンプ操作、三連梯子、訓練礼式など勉強同様に覚えることがあります。体力的にも大変で、まだまだ体力が足りないことを実感し、自由時間にランニングやウエイトレランニングを積極的にしました。体が大きくなっていることが分かると益々意欲が高まるので、継続していきよう頑張りたいです。

あと五ヶ月位だと思つと、まだまだ知識も体力も足りないので危機感を持ち、卒業してからも現場で通用出来るように努力していきたいです。



遠藤 直  
(男鹿地区消防一部  
事務組合消防本部)

消防学校では人生で初めての寮生活で、最初は慣れないことばかりでした。特に、洗濯、身の回りの整理整頓、他人との付き合いなど、今まであまり必要とされなかった行為をしていたため、一週間がとてもしんどく感じていました。しかし現在の寮生活は慣れというものもあると思います。毎日楽しく厳しい訓練なども、乗り越えることが出来るようになります。

消防学校での訓練や授業は、これからの消防人生の基礎となってきました。この一ヶ月間の訓練は、訓練礼式、操法などを行ったのですが、どの訓練も覚えることが多く、繰り返し練習していくことで、体の使い方や呼吸の仕方を覚えることが出来ました。何度も間違え失敗してききましたが、その経験が糧となり上手になっていくと思うので、これからの訓練を精一杯頑張っていきたいと思えます。

私は、これからの消防人生のスタートラインに立ったばかりなので、分からないことばかりですが、この初任教育の六ヶ月間から基礎を学び、立派な消防士になりたいと思います。



白川 雅寛  
(湖東地区行政一部  
事務組合消防本部)

消防学校に入校して約一ヶ月が経って、日々生活している中で感じたことは三つある。

一つ目は、勉強をしつかりするということだ。毎日の座学の中で、理解ができないようなことがあった場合は、その日のうちにしっかりと理解し、復習をしてから、次の時間の座学に望んでいきたい。また、各教科で効果測定があるので、それぞれの教科で九割超えを目指して勉強を頑張っていきたい。そして、初任科程を修了した後、現場に行ったときに困らないようにするために、日々の座学で学んだことを自分の知識にしていきたい。

二つ目は、体力練成をしつかりとすることだ。入校して直ぐの体力テストで、自分の体力の無さを痛感したので毎日練成を行ってきた。これからも継続して励んでいきたい。

三つ目は、部屋のメンバーの方々のことだ。室長をはじめとして、みんなとても話しやすく、優しいのでとても過ごしやすい。九月までの長い間、一緒にいる時間が長くなっていくので、これからもっと仲を深めていきたい。

平成28年度秋田県消防操法大会支部大会日程

支 部 名	開催月日	開 催 場 所
鹿 角	7. 3(日)	鹿角市役所駐車場
大館北秋田	7.24(日)	大館市比内グラウンド
能代市山本郡	7.10(日)	能代港下浜岸壁埠頭
男鹿潟上南秋	7.31(日)	サンルーラル大潟駐車場
秋 田 市	7.10(日)	秋田市消防訓練場(秋田市御所野)
由利本荘にかほ	7.23(土)	にかほ市消防庁舎前
大仙仙北美郷	7.16(土)	大仙市雄物川河川緑地運動公園
横 手 市	7.24(日)	横手市大森多目的広場
湯沢市雄勝郡	7.31(日)	湯沢市河川敷運動広場松ノ木グラウンド



モリタ消防ポンプ  
桜ホース・ソフト吸管  
各種消火器

シバラポンプ  
消防被服一式  
消防機器一式

---

株式会社 能代消防センター  
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防  
ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

設 備  
火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)  
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

# 支部情報アラカルト

## 春の火災予防週間

### 火災想定訓練

鹿角市消防団

春の火災予防週間初日の四月三日、鹿角市消防団では毎年火災想定訓練を実施しています。

今回は大規模火災が発生し、全分団が出動となる特命出動火災を想定した放水訓練のほか、救急救助資機材を積載している、鹿角市消防団救急救助支援隊と鹿角市消防団協力事業所(有限会社ホクセイ 参加車両・ゴミ収集車 株式会社石川組 参加車両・バックホー、貨物トラック)が



連携して合同訓練を行いました。想定訓練は、業務中のごみ収集車

が倒木による交通傷害を発見し、一九番通報。消防本部で現場確認したところ重機による道路開通が必要のため、重機を所有する協力事業所及び救急救助支援隊に出動を要請。



救急救助支援隊はチェーンソーにより倒木を切断、協力事業所についてはバックホーにより倒木の枝及び幹を切断後、連携してトラックに積載し道路開通訓練を実施しました。

災害時は、消防本部及び消防団のみの活動は限られるため、各消防団協力事業所が有する特化した機動力や重機活動の連携は欠かせません。

今回の訓練で改めて消防団協力事業所との連携強化を図ることができ、非常に有意義な訓練となりました。

## 火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成28年		平成27年			同期比較	
	5月	累計	5月	累計	年計	5月	累計
建 物	15	96	11	88	211	4	8
林 野	10	20	7	21	34	3	- 1
車 輛	5	17	4	17	45	1	0
その他	5	33	15	35	83	-10	- 2
合 計	35	166	37	161	373	-2	5
死者数	1	12	8	26	40	-7	-14
負傷者数	6	25	2	46	86	4	-21

〔情報提供〕鹿角支部



トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
消防被服全般  
秋 田 県 代 理 店

総合防災設備センター

## 株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

## 株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)